



神戸大学大学院農学研究科地域連携センター

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 (A103号室)

Tel 078-803-5939 E-mail a-chiiki@people.kobe-u.ac.jp WEB https://www.edu.kobe-u.ac.jp/ans-chiiki

オフィスアワー 火・金 11:00～16:00 ※不在の場合がございます。メールが電話で、事前にお問い合わせください。

Center for Regional Partnership Graduate School of Agricultural Science Kobe University

地域連携センターの役割

近年、大学では、教育・研究と並んで社会貢献の重要性が増しています。農学研究科地域連携センターは、神戸大学が保有する知識や技術を、農山村地域の問題解決および価値創造において積極的に活用し、地域社会の発展に貢献することを目的に、2003年に創設されました。

地域連携センターに求められている主要な役割に、地域のシンクタンク機能、地域で働く人材養成機能、相談支援機能があります。こうした機能を果たすべく、地域住民、行政、NPO等と農学研究科を結び、その活動をサポートする中間支援の役割を担っています。同時に、センターが中心となり、共同研究、セミナー、ワークショップ、意見交換会などの地域交流を積極的に実施し、地域の課題解決やリカレント教育などの社会貢献を進めています。農学研究科地域連携センターの主な事業は、次の3つです。

- (1)地域共同研究 (2)地域交流活動 (3)相談・情報発信

農学研究科の基本目的は、「食料・環境・健康生命」に関わる諸問題を専門的かつ総合的に教育研究することです。当センターは地域と農学研究科の知を共有し、問題解決・価値創造に貢献することにより、ともに発展することを目指して、活動を進めています。



ごあいさつ

農学研究科では、丹波篠山市に「丹波篠山フィールドステーション」と「神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ」を、東播磨県民局、京都大学、兵庫県立大学とともに加古川市に「東播磨フィールドステーション」を設け、これらの拠点を活用した教育研究活動と地域連携活動を推進しています。また生産者や生活者の立場から地域の実態を学び、それらの課題を解決する実践力の養成を目指した「食農コブ教育プログラム」の一環として、丹波篠山市の農家・農村に学ぶ「実践農学入門」と「実践農学」、兵庫県などと連携して行う「兵庫県農業環境論A、B」を開講しています。地域連携センターはこれらの活動の中核を担っています。

現在はコロナ禍の影響から概ね脱しており、「実践農学入門」と「実践農学」を現地で開講するとともに「兵庫県農業環境論A、B」を対面形式の授業としています。また「実践農学入門成果報告会」と「丹波篠山研究発表会」も現地で開催しました。農業系ボランティアサークルの活動も活発になっています。現地での授業、発表会やサークル活動の受け入れにご理解、ご支援いただいている丹波篠山市の皆様へ厚く御礼申し上げます。

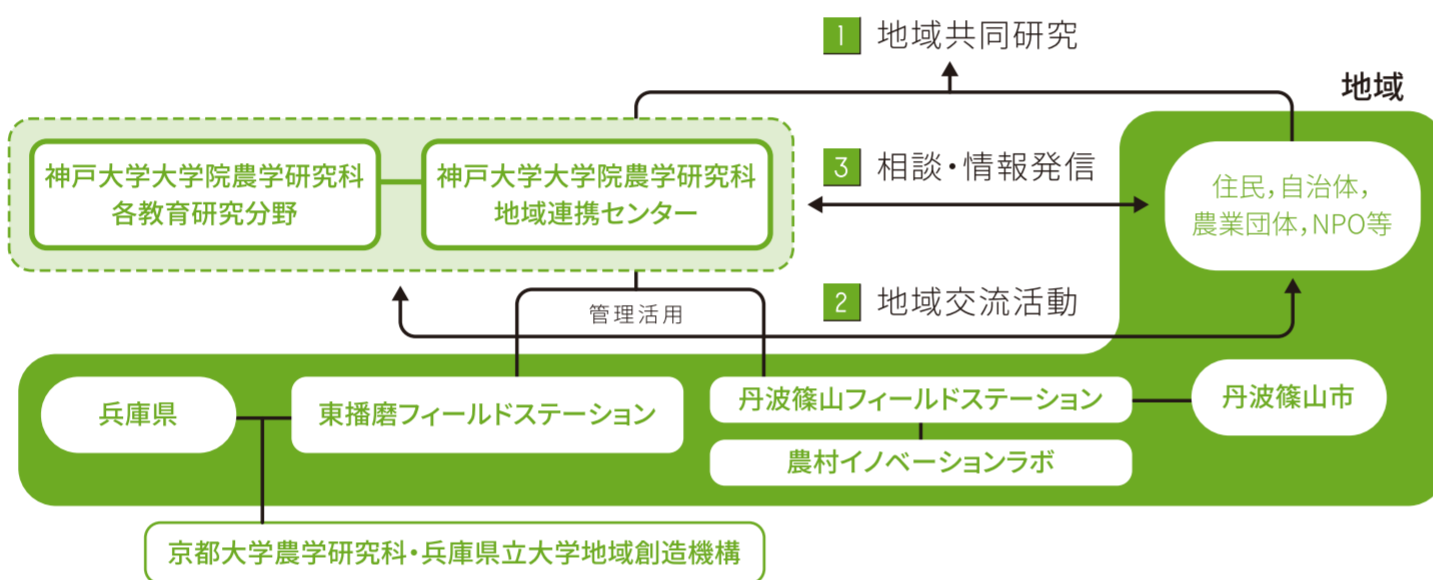
この「活動レポート」は、2023年度に当センターが実施した活動をとりまとめたものです。我々の活動への理解を深めていただく一助になるとともに、地域の持続的な発展に役立てば幸いです。

神戸大学大学院農学研究科地域連携センター長

田中丸治哉

組織体制

地域連携センターは、農学研究科および神戸大学地域連携推進本部のもとに組織されています。常勤・非常勤の地域連携コーディネーターを中心に、農学研究科教職員や各種地域団体と連携を図りながら事業を推進しています。学内外の幅広い知見や情報、それに基づく助言を得るためのアドバイザーも設置しています。



2023年度スタッフ

Table with staff names and titles, including Center Director, Deputy Director, and various coordinators.

1 地域共同研究

地域の課題解決や価値創造を目的に、行政、協同組合、住民団体、NPO等と連携して調査研究を実施しています。マッチングや事業化、事務局業務等も行います。

Project summary: Bio-economy based sustainable development of Saiya Village. Includes image of the village and text about SDG goals.

Project summary: Evaluation of rainwater storage capacity and flood reduction effect in the Tamaike area. Includes image of a pond and text about water management.

Project summary: Research on broadleaf afforestation in Sugi artificial forests. Includes image of a forest and text about carbon sequestration.

Project summary: Construction of a food value chain for animal fat utilization. Includes image of a product and text about food waste reduction.

Project summary: Research and practice by citizens in the Tamaike research center. Includes image of a meeting and text about community engagement.



Project summary: Development of automatic judgment method for field conditions in Hyogo Prefecture. Includes image of a field and text about agricultural technology.

Project summary: Handling of conflicts in local cooperation activities. Includes image of a meeting and text about community relations.

Project summary: Construction of a food community based on Kobe University. Includes image of a market and text about food security.

Project summary: Monitoring of Hase restoration project in Sasayama City. Includes image of a field and text about environmental restoration.

Project summary: Support for local management organization operations. Includes image of a meeting and text about organizational support.

Project summary: Promotion of organic agricultural products. Includes image of a market and text about local food production.

Project summary: Research on functional properties of black soybeans. Includes image of soybeans and text about health benefits.

Project summary: Preservation and inheritance of local festivals in Sasayama City. Includes image of a festival and text about cultural heritage.

Section titled 'Research by Students' listing various student projects and their supervisors.

2 地域交流活動

農学部と地域とのパートナーシップにより、懇話会、学習会、フォーラム・シンポジウムなどを開催。知を共有し、地域活動を推進します。行政施策の審議会や委員会などの委員、地域へのアドバイザー派遣の支援も行います。

フォーラム、研究会、セミナーの開催

【実施の概要】

1. 地域連携研究会/A-Launch

昼休みの時間をつかった地域連携トークイベント「A-Launch」を2012年度より開催しています。

第22回 10月17日

「綿づくりから地域活性化～綿から生まれたマヨネーズ!？」
話題提供 濱田紗希/食料環境経済学講座 小川ゼミ4回生
山田真輝/地域連携センター

2. セミナー等

11月17日 共同講演会:「女性農業者×学生」食と農の魅力発信～食と農の次世代への継承に向けて～
農林水産省近畿農政局兵庫拠点、アグリビジネスの会と講演会を共催した。
話題提供 細見多恵子氏/丹波篠山市地域活動推進委員会、西脇章氏/ハートフードクリエイティブ株式会社

12月12日 丹波篠山学生団体合同イベント「味わう篠山」
神戸大学キャンパス内で、丹波篠山市で活動するボランティアサークルを紹介するイベントを開催した。
主催 神戸大学地域連携推進本部ボランティア支援部門/共催 神戸大学大学院農学研究科地域連携センター
協力 丹波篠山市地域おこし協力隊

6月24日・25日 栄養教室

神戸市サッカー協会(4種)北地区の選抜選手の合宿において小学4年生(48名)および6年生(32名)の選手に対して栄養講座を開催し、少年サッカーにおける食事の考え方や熱中症対策に必要な水分補給などについて助言した。

話題提供

内海 真緒 氏(神戸学院大学 栄養学部 栄養・教育学部 助手)「食育授業(小学4年生向)」
橋本史史(応用生命化学講座 食品・栄養化学教育研究分野 准教授)「栄養(食事)の話(小学6年生向)」

学生地域活動サポート

当センターでは、地域と連携した取り組みを進める学生団体に対し、情報提供、情報発信サポート、相談対応など、活動の発展と充実に向けた支援を実施しています。今年度は3団体(にしき恋、AGLOC、Luonto)の活動をサポート。あわせて、丹波篠山市で活動している活動団体間で相互の情報共有を図ることを目的に「篠山学生活動団体連絡協議会(さされん)」を組織し、運営を支援しています。また、学内での取り組みとして、2013年度より、丹波篠山市で活動する学生団体が農家とともに生産した農作物(黒大豆等)の直売所「ささやま家(や)」を設置。生産から販売までの過程を経験する機会となっています。



にしき恋 活動テーマ 地域農産物栽培・販売による地域PR

農業ボランティアをはじめ、地域の小学生や中学生との交流といった地域との関わり、また丹波篠山市の名産である丹波黒大豆を栽培・販売しているサークルです。今年度は、毎週末農業ボランティアの活動を精力的に行くと同時に、小学生交流や無人駅でのマルシェの開催、地域のお祭りへのお手伝いなど地域との関わりも深いものとなりました。また、にしき恋のファームで収穫した黒枝豆と黒豆もオンラインや学内販売などで完売することができ、今年度は黒豆をきな粉にして加工品を販売する試みも行いました。



AGLOC 活動テーマ 丹波篠山と世界をつなぐ

「国際交流」と「農業」を軸に、神戸大学の留学生とともに月1・2回活動しています。コロナ禍が明けた2023年度は、より多くの留学生に農業や丹波篠山の魅力を感じてもらえるように活動をおこないました。メインの活動である農業ボランティアに加え、留学生の城下町観光のガイドや地域イベントへの参加など、様々な活動を通して、幅広い方々とつながりを感じることができました。



Luonto 活動テーマ 多世代交流拠点づくりと次世代継承

2021年度の実践農学の授業から誕生したサークルです。丹波篠山市城南地区における多世代交流拠点づくりを主軸とし、活動しています。本年は、活動連携先の「アグリステーション丹波ささやま」にて、学生カフェ運営に向けた内装整備を進めるとともに、掃除や農業のお手伝いを行いました。また、放置竹林を活用した自然体験イベントや、子ども向けゆずジャム作りイベントの実施、緑日への参加など、季節に合わせたイベント企画にも積極的に取り組みました。加えて、神戸市灘区成徳小学校地区のお祭りのお手伝いをし、共に田植えや稲刈りに参加するなど、幅広く活動しました。

「ノラバ」の事務局運営



当センターでは、農村ボランティアバンクKOBEBE「ノラバ」の事務局として、ボランティアを必要とする農家と学生・市民のマッチングを進めています。2023年度は、新規1軒で合計20軒の農家登録と新規40人で合計187人のノラバイター登録があり、43件のマッチングを実現しました。農家さんを対象に実施したアンケートにより、ノラバをきっかけにボランティアを始め、その後も継続的にボランティアに通っているノラバイターが10名いることが分かりました。また、東播磨フィールドステーションとため池みらい研究所との共同イベント「ため池かいり体験」を開催し、地域交流やボランティア活動の促進に貢献できました。



神戸農村スタートアッププログラムの企画・協力

神戸市の農村地域(北区・西区)での起業や事業づくりに特化した、創業支援プログラムの企画に協力しています。2019年9月より実施しており、第5期生として18名が農村地域の実情や、農村地域で起業する上での心得などを学びました(神戸市主催)。



セミナー

食・農・環境ビジネスに関する理論やノウハウの習得を目的にセミナーが実施されました。事業家や専門家などを講師に迎え、実際に農村で事業を進めるうえでのプロセスなどを学びました。

現地ワーク

神戸の農村(北区、西区)を実際に訪れ、その地域の人々、仕事を知ることを目的に、フィールドワークを行いました。農村や市内で活躍する事業者の職場を訪問しました。

ビジネスモデルの構築

事業を通して実現したい社会について考え、そのためのビジネスモデルを構築。ディスカッションを重ねながら、想いやアイデアを形にすることを支援しています。

3 相談・情報発信



ホームページ等による情報発信

大学と地域をつなぐ拠点として、共同研究や地域活動に関する相談対応、情報発信を行っています。Annual Report(活動報告書)の発行をはじめ、ホームページやSNSを通じて地域連携活動に関する情報を随時発信しています。



地域連携センター/ホームページ
<http://edu.kobe-u.ac.jp/ans-chiiki>

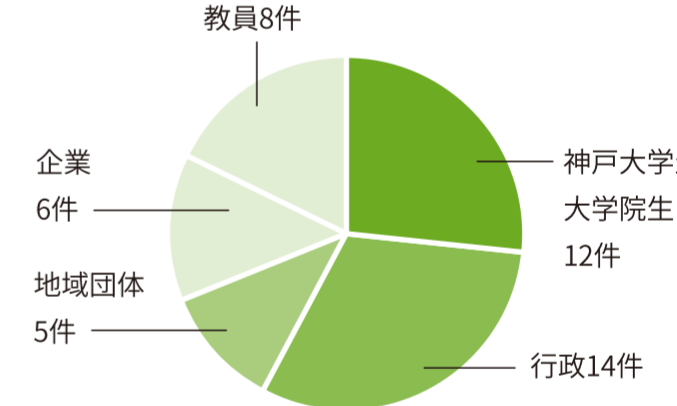
Facebook
[facebook.com/kobe.univ.agri.renkei](https://www.facebook.com/kobe.univ.agri.renkei)



X
@agregion

オフィスアワーの実施

大学と地域をつなぐ拠点として、所属するスタッフが各種相談に対応しています。2023年度は45件の相談が寄せられました。内容は食農コープ教育や地域活性化などに関する相談が多く、相談者は神戸大学生・大学院生12件、行政14件、地域団体5件、企業6件、教員8件と幅広く相談を受け付けています。



4 食農コープ教育プログラムの推進

農学部では、学部教育で培う専門性と結びつけながら、生産者や生活者の視点から地域の課題を学び、課題解決に貢献できる人材の育成を目指す「食農コープ教育プログラム(Cooperative Education)」に取り組んでいます。特に、現場での実践活動をともなう科目の内容を充実させる取り組みを進めており、当センターはプログラムの事務局として、3つの科目の運営を支援しています。

1年次 → 現場に行ってみよう

2年次 → 専門知識を増やしながら実践経験を重ねよう

3年次 → 経験と知識を融合させよう

4年次 →

農家に師事する 実践農学入門

1年次通年(2単位)

現場

農村地域(丹波篠山市)において、地元の農家さんを指導員とし、農作物の栽培や、むら仕事を体験しながら農業や農村生活への理解を深めることを目的としています。2023年度は雲部地区を受け入れ先として、42名の学生が9班に分かれて黒大豆の栽培を中心とした農作業を体験しました。



現場の課題に参画 実践農学

2年次通年(2単位)

農業農村の現場での調査型プロジェクトやインターンシップ型プロジェクトへの参加を通して、地域の産業・環境・社会を理解する基礎的な技術や能力、企画力や調整力を身につけることを目的に、2023年度は、計32名の履修者が5つのプロジェクト(茶葉茶座:6名、むらの広報企画:4名、カヤ場でビジネスを起こそう:6名、赤菊産地の維持・継承:8名、六甲のめぐみ:8名)に分かれて活動しました。



支える仕組みを学ぶ 兵庫県農業環境論A/B

2年次 第3Q/第4Q(1単位×2)

兵庫県の農林水産業の位置づけ、現状と課題、政策展開を体系的に正しく理解し、批判的に評価した上で、適切な対策を提案する力を養うことを目的としています。兵庫県農業環境論Aでは、兵庫県職員、農水省職員、JA職員等を講師に迎え、オムニバス形式で講義を実施しました(履修者数:95名)。兵庫県農業環境論Bでは、4班に分かれて、「有機農産物の消費拡大・促進のためのビジネスモデルを考えよう」というテーマで、現在の市場・消費者意識に着目しながら有機農産物の認知度を高めることを目的とした政策立案に向けたワークショップを実施しました(履修者数:21名)。

※2017年度より「兵庫県農業環境論A」と「兵庫県農業環境論B」に分割

教室